

# 外部サプライヤー管理義務

## EUDA – エンドユーザー開発アプリケーション

本 SCO（サプライヤー管理義務）内で使用される「EUDA」という用語は、Barclays の EUDA 決定木を通して特定される EUDA にのみ適用され、サプライヤーが Barclays に提供するサービスをサポートするために使用されます。

管理エリア	管理対象	管理内容	本件が重要である理由
ガバナンスと保証	1. 役割と責任	<p>サプライヤーは、EUDA に対する役職と責務を定義し、周知するものとします。</p> <p>これらは、サプライヤーの業務モデルまたはビジネスに重要な変更があった場合には見直しが必要です。</p> <p>主要な役職には、EUDA に責任を負う上級役員を含むものとします。</p>	<p>EUDA には、管理が有効に策定され、実施され、運用されていることを確認するために高レベルの支援が要求されます。</p> <p>上級経営陣に、EUDA リスク管理の策定と運用への保証をもたらすために、継続的な監視が必要です。</p>
ガバナンスと保証	2. EUDA リスク報告	<p>EUDA リスクインシデントを確実に報告、管理するため、書面管理とプロセスを設定するものとします。</p> <p>サプライヤーは、EUDA に関するインシデントおよび情報侵害が発生した場合には、速やかに Barclays に報告するものとします。Barclays 情報、および/または、Barclays により使用されるサービスに影響を与える誤りを適時に処理し報告するためのインシデント対応プロセスを確立するものとします。</p> <p>サプライヤーは、インシデント後に特定された改善措置が、改善計画（アクション、責任者、実施日）によって対処され、Barclays に対して開示され、合意を得ることを確認するものとします。</p>	
ガバナンスと保証	3. 継続的監視	<p>サプライヤーは、定期的に、またいかなる場合も暦年に 1 度以上、この表への適合を評価、審査し、文書に記録するものとします。</p>	
ガバナンスと保証	4. 現地法制要件の遵守	<p>サプライヤーは、サプライヤーが営業する司法管轄区に適用される、EUDA に関連する法規制上の要件が適切に文書化され、要件に従っていることを確認するものとします。</p>	(上記に同じ)

ガバナンスと保証	5. EUDA の教育および認識	<p>サプライヤーは、従業員を EUDA の責務に割り当てるものとします。</p> <p>EUDA の役職を任命された従業員は、その役職に適応する教育および意識向上トレーニングを完了しなければなりません。</p> <p>この管理業務は 1 年に 1 度以上実施し、これを実証するための証明書を保管しなければなりません。</p>	
EUDA 管理の目標	6. EUDA の特定	<p>サプライヤーが所有する、または Barclays サービスをサポートする EUDA を実行するためのプロセスを文書化し、実施するものとします。</p>	<p>EUDA の特定は、すべての EUDA に必要な管理の正確なレベルを決定する際に非常に重要です。</p>
EUDA 管理の目標	7. EUDA 重大度評価	<p>それぞれの EUDA 重大度は、製造で最初に使用される前、および各 EUDA の変更が実施される前に評価するものとします。</p> <p>サプライヤーの重大度評価では、サプライヤーが Barclays に提供するサービスに対する、規制、財務、評判に対する影響を考慮するものとします。</p> <p>重大度評価では、エラーの重要性と発生見込みについても考慮するものとします。</p> <p>付録 C を参照してください</p> <p>重大度に関する関連基準には以下が含まれます：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• EUDA は Barclays に提供される製品やサービスに関連した重大なアクティビティをサポートしているか</li> <li>• EUDA のアウトプットには、Barclays に対する財務の影響が含まれる可能性があるか</li> <li>• 情報、見積もり、EUDA のアウトプットが正確でない場合、または期限切れまたは不正があった場合、Barclays の顧客が不利益を被ることがあるか</li> </ul> <p>エラーの発生見込みに関する関連基準には以下が含まれます：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• EUDA において認識された複雑性（複雑で高度な数式レベルまで有意な計</li> </ul>	<p>EUDA の重大度を理解することにより、当社のサプライヤーは、EUDA のための適切な管理レベルを決定し、実行することが可能になります。</p>

		<p>算ではない)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 使用頻度</li> <li>• EUDA の数式や理論の変更頻度、および</li> <li>• ユーザー数。</li> </ul> <p>EUDA の重大度は Barclays と合意されるものとします。</p>	
EUDA 管理の目標	8. EUDA の重大度に基づいた最低管理要件	<p>サプライヤーは、Barclays と合意した重大度レベルに基づいた管理目標の要件を満たす管理を実施するものとします。</p> <p>「M」とマークされた管理目標は、本スケジュールで必須とされます。その他のすべての管理目標にはオプションであり、「O」とマークされています。付録 B の管理表を参照してください。</p> <p>適用される管理目標が達成されたことを示すため、適宜、証拠を保持するものとします。</p>	より低いリスクの EUDA を過剰に管理することを避けるため、EUDA によるリスクに従い、適切なレベルの管理を適用するものとします。
EUDA 管理の目標	9. EUDA の正当性	<p>それぞれの EUDA は、初めて使用する前に正当性評価手続きを経るものとします。これにより、本件が必要であるか、または事業プロセスに関してサポートする代替的手段（管理サービスへの移行など）の方がより効果的ではないか、および/またはは EUDA を継続するよりもリスクを低減できるかが評価されます。</p> <p>EUDA の正当性評価手続きは、EUDA が最初に作成されたとき（最初に使用する前）に行い、その後も定期的に再度実行するものとします。</p> <p>正当性評価手続きの成果と証明は保管し、EUDA を最初に使用する前、およびその後も本手続きを実施する際には常に Barclays に通知するものとします。</p>	EUDA 正当性評価手続きを理解することにより、サプライヤーは、EUDA 管理目標が本当に必要であるかどうかを評価することができます。
EUDA 管理の目標	10. EUDA の登録	<p>EUDA インベントリーは、サプライヤーの対象範囲内の EUDA 全体に透明性を提供し、本スケジュールの規定の主な属性を網羅するものとします。</p> <p>完全、正確かつ最新の EUDA インベントリーを保証するためのプロセスを文書化し、実施</p>	EUDA インベントリーの完全性は、EUDA の適切なセキュリティとオペレーションを保証する上で基本的なものです。

		するものとします。EUDA インベントリーは、正確さの維持と完全性の確証のため、少なくとも年に一度見直されるものとします。	
EUDA 管理の目標	11. アクセス	すべての EUDA のデータとビジネスロジックへのアクセスは、適切なアクセス権を持つ適切なユーザーに限定されるものとします。アクセスは、リスクベースアプローチにより見直しが行われるものとします。	適切なアクセス管理を行うことにより、不正、不適切、または帰属不能なアクセスから EUDA を保護することができます。
EUDA 管理の目標	12. 可用性	Barclays と合意した要件にしたがって EUDA が利用可能であることを確認するための管理を設けるものとします。	EUDA の可用性により、ビジネスプロセスの継続的な運用が保証されます。
EUDA 管理の目標	13. 変更管理	<p>変更管理原則に従うことにより、EUDA がビジネス論理の変更に従って期待通り運用されていることが確認できます。</p> <p>EUDA ビジネス論理または主要な静的データにおける変更が、出力または報告における誤りを発生させるようなことがあってはなりません。EUDA のユーザーは、事業目的に関連するバージョンの EUDA にのみアクセスできるものとします。</p> <p>データ入力、計算およびデータ出力の完全性と正確性は、適用された変更が期待された結果を生じることを確認するための（自動および/または手動）テストを通して実証されます。</p> <p>変更によりエラーが報告されないよう、EUDA 重大度の評価で「中程度」から「高い」と評価された EUDA を特定するためのテスト手順を特性し、Barclays と合意するものとします。</p> <p>アーカイブ・バージョンは、プロダクション・バージョンと同じ場所に保存してはなりません。</p> <p>サプライヤーは、EUDA プライマリユーザーが不在の場合、EUDA の継続的な使用と保全をサポートするセカンダリユーザーを指定するものとします。</p>	適切な変更管理は、EUDA が変更後に期待通り機能し続けるために不可欠です。

EUDA 管理の目標	14. 記録要件	<p>入力、計算、出力に関する知識およびこれらを変更する能力は、1人の個人に限定されないものとします。</p> <p>また、EUDAを修正、維持するための特定のEUDAに精通した個人が使用できる十分な文書が存在するものとします。</p>	<p>EUDAはエンドユーザーによって管理されるため、EUDAの重大度情報を確保する十分な記録が重要となります。これにより、知識の移行が可能となり、知識損失の可能性を最小限にすることができます。</p>
------------	----------	--	---

## 付録 A : Barclays によって使用される定義

定義	
EUDA	<p>EUDA は、エンドユーザーにより作成、使用、管理されるアプリケーションおよびツールを指す。これらは通常、標準的なデスクトップソフトウェア（Microsoft Excel または Access などが知られる）およびその他の種類のデータベース、クエリ、マクロ、スクリプト、レポートングツール、実行可能ファイル、コードパッケージを使用して開発される。</p> <p>EUDA は継続的に（1 回限りの使用ではない）ビジネスプロセスを実行するか、その一部となっているため、計算または出力が不正確、利用不可、古くなった場合、または破損している場合には、当行に財務上、規制上、または風評上の影響を及ぼし、また顧客に損害を引き起こす恐れがある。</p>

## 付録 B：最小限の管理要件

各管理の適用性は、以下の表にしたがって決定されます。（O = オプション、M = 必須）：

管理対象	EUDA 重大度格付け			
	非常に低い	低い	中程度	高い
1.役割と責任	M	M	M	M
2.EUDA リスク報告	M	M	M	M
3.継続的監視	M	M	M	M
4.現地法令および法定基準の遵守	M	M	M	M
5.EUDA の教育および認識	M	M	M	M
6.EUDA の特定	M	M	M	M
7.EUDA 重大度評価	M	M	M	M
8.EUDA の重大度に基づいた最低管理要件	M	M	M	M
9.EUDA の正当性	M	M	M	M
10.EUDA の登録	O	M	M	M
11.アクセス	O	M	M	M
12.可用性	O	O	M	M
13.変更管理	O	O	M	M
14.記録要件	O	O	O	M



## 付録 C： EUDA 重大度評価

EUDA 重大度評価には 2 つのサブ評価が含まれます。EUDA のプライマリユーザーは、EUDA の重大度を決定するために両方のサブ評価を実施するものとします。

- Barclays にとっての EUDA の重大度の評価
- EUDA のエラーの発生見込みの評価

個々の EUDA の重大度は、以下の基準により得られた最も高い格付けと定義されます

EUDA の重大度 基準 1	EUDA の重大度格付け			
	低い	中程度	高い	極めて高い
1) EUDA は規制上の影響を与える重大なアクティビティをサポートしているか（リスク加重資産 (RWA) 相当または EUDA により直接影響を受けるエクスポージャー）？	£5000 万未満	£5000 万～£5 億	£5 億～£10 億	£10 億超
2) EUDA のアウトプットは財務報告に影響を与えるか？	P&L への影響 £100 万未満  BS への影響 £10 億未満	P&L への影響 £100 万～£1000 万  BS への影響 £10 億～£20 億	P&L への影響 £1000 万～£5000 万  BS への影響 £20 億～£30 億	P&L への影響 £5000 万以上  BS への影響 £30 億超
3) EUDA の情報、見積もり、アウトプットが正確でない場合、または期限切れまたは不正があった場合、破損していた場合、銀行の顧客に対してどのような影響が及ぶ可能性があるか？	影響を受ける顧客数 100 未満  100  顧客損失合計 £100 万未満	影響を受ける顧客数 100～1000  顧客損失合計 £100 万～£1000 万	影響を受ける顧客数 1000～10000  顧客損失合計 £1000 万～£5000 万	影響を受ける顧客数 10000～50000  顧客損失合計 £5000 万以上
4) EUDA の情報、見積もり、アウトプットが正確でない場合、または期限切れまたは不正があった場合、破損していた場合、当行の評判に対してどのような影響が及ぶ可能性があるか？	現地の事業部門レベルでは重大ではないと判断される影響。グループブランドまたは評判に対する影響はない。	現地の事業部門レベルで対処可能であると判断される影響が発生する可能性がある。グループブランドまたは評判に対する影響はない。	複数のビジネス/地域に悪影響が及ぶ可能性がある。グループブランドまたは評判に対する影響はまずない。	グループブランドに影響が及ぶ可能性がある。

EUDA のプライマリユーザーは、以下の基準を使用し、EUDA のエラー発生の可能性を評価するものとします。EUDA のプライマリユーザーは、エラー発生の可能性の最終的な格付けを計算するため、すべての基準のスコアを集計するものとします。

EUDA のエラー発生の可能性の基準	エラー発生可能性スコア			
	1	2	3	4
1) EUDA において認識された複雑度 (以下の定義を参照*)	極めて低い	低い	中	高い
2) EUDA の使用頻度	四半期に 1 回 未満	四半期に 1 回またはそれ以上、た だし月に 1 回未満	月に 1 回またはそれ以上、ただし毎日 ではない	1 日に 1 回またはそれ以上
3) EUDA の数式/理論の変更頻度	1 度もない、また は非常に稀であ る	変更は行われるが、例外的な場 合である	定期的に変更されるが、EUDA が使用 されるたびに毎回ではない	EUDA が使用されるたびに毎回
4) EUDA のユーザー数	1 人	同一の業務運営チーム内の複数の ユーザー	事業単位または部門内の複数のチー ムの複数のユーザー	複数の事業単位および/または複 数の部門の複数のユーザー

\*EUDA の機能性を指し、分類は以下の通りです：

- **極めて低い** –EUDA での重要な計算はない。主に要約レポートとして使用される。
- **低い** – 限られたアプリケーションの知識を持つレビューアが、外部からの説明なしに、観察を通じて公式の目的と効果を解釈することができる。
- **中程度** –より複雑な機能性。アプリケーション（Excel、Access など）の使用に精通するレビューアが、EUDA の目的と効果を解釈するための追加情報を必要とする場合がある。
- **高い** – 高度な複雑性と高度な数式。他のスプレッドシート、データベース、ウェブサイト、表などとリンクしている場合がある。

エラー発生見込みの最終的な格付けは、合計スコアを以下の表に適用して計算します：

エラー発生可能性の格付け	低い	中程度	高い	非常に高い
合計スコア	4～6 未満	6～9 未満	9～12 未満	12～16

#### EUDA 重大度評価

EUDA のプライマリユーザーは、重大度とエラー発生の可能性を併せて使用し、EUDA の全体的な重大度を決定するものとします。決定には以下の表を使用します。EUDA のプライマリユーザーは、EUDA 重大度評価を EUDA インベントリに記録するものとします。

重要度	極めて高い	中程度	中程度	高い	高い
	高い	中程度	中程度	中程度	高い
	中程度	低い	低い	中程度	中程度
	低い	非常に低い	非常に低い	非常に低い	非常に低い
エラー発生の可能性		低い	中程度	高い	非常に高い

